

# あたらしくはいった本 (令和4年5月 貸出開始資料から)

- 小説 棘の家(中山七里/著) 広重ぶるう(梶よう子/著) カレーの時間(寺地はるな/著) 残された人が編む物語(桂望実/著) 朽ちゆく庭(伊岡瞬/著) 信仰(村田沙耶香/著) うまたん(東川篤哉/著) ナイトシフト(香納諒一/著) 忍者に結婚は難しい(横関大/著) よろずを引くもの(西條奈加/著) 馬鹿みたいな話!(辻真先/著) 雨滴は続く(西村賢太/著) リリアンと燃える双子の終わらない夏(ケヴィン・ウィルソン/著) 呼び出し(ヘルタ・ミュラー/著)
- 随筆・詩などの文学 地球、この複雑なる惑星に暮らすこと(ヤマザキマリ、養老孟司/著) 捨てることから始まる(瀬戸内寂聴/著) やりなおし世界文学(津村記久子/著) 杳が行く。(戌井昭人/文・写真)
- その他の本 日本水引(長浦ちえ/著) 寝ても覚めてもアザラシ救助隊(岡崎雅子/著) 和ハーブのある暮らし(平川美鶴/著) JA全農広報部さんにきいた世界一おいしい野菜の食べ方(JA全農広報部/監修) 調停による円満解決(日本調停協会連合会/編)



『棘の家』  
中山七里  
KADOKAWA



『広重ぶるう』  
梶よう子  
新潮社



『日本水引』  
長浦ちえ  
誠文堂新光社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
8		①	2	3	4	5	6
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	⑳	22	23	24	25	26
	28	㉑	㉒	30	31		

○印の日は、お休みです。  
開館時間 午前10時から午後6時まで  
金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

## 日唐律令比較研究の現在 ～北宋天聖令の発見～

歴史を勉強していると、ひとつの資料の発見によってそれが大きく変わるということを経験することがあります。ここで紹介する北宋天聖令の発見もそうした一例でしょう。

古代の日本は、中国から律令という法律を取り入れて、それらによって国の仕組みなどを整えていきました。この時期を律令国家と呼ぶのは、そのことに由来しています。日本では江戸時代以来、中国(特に日本が直接の手本とした唐)の律令と日本のそれとを比較して、共通点や相違点を探る比較研究が盛んに行われてきました。しかし、ここには大きな問題がありました。日本では、律令のうち令(今日の行政法に相当)の条文は、大半が条文の形で現在まで伝えられています。一方、中国ではこの令条文は失われていて、さまざまな書物に引用されたものから復原しなければならなかったのです。



たのは全体の3分の1ほどですが、一定の手続きをふめば、日本令の条文との字句の異同といった細部に至るまで、かなり直接的な比較ができるようになりました。結果、これまで定説と考えられていた点に修正が加えられたものも少なくありません。天聖令の発見は、日唐律令比較研究にまったく新たな局面を切り拓くことになったのです。

私は、今、大宰府の軍事的機能を考えるために、防人制のことを調べていますが、関連する研究の中には、この天聖令を用いた日唐律令比較に触れたものもあります。防人のことは、令の中では軍防令という編目に規定されています。残念ながら発見された3分の1には、この編目は含まれていません。しかし、そこには日本の律令軍制や地方軍制を考える際に、重要な条文が含まれており、この日唐律令比較という観点を避けて通ることはできません。こうした点にも留意しながら、今後、検討を進めていきたいと考えています。

【バックナンバーはこちら】  
ページID 7241

太宰府市公文書館 重松 敏彦